

天尊行如來德

前の四徳は仏陀の別徳を明したので今は總徳なり。身口意の三輪が清浄にして万徳圓滿自ら莊嚴し自然に一切を化すること譬えば太陽の自己の光が普く一切に及ぼす如く常に自然に衆生摂化の働を為して居る。天は自然任運に靈徳備わりて衆生に光益を施す。仏は太陽の如く自己に靈徳充滿して其徳光を以て衆生を化したまう。

華嚴に譬ば日出でて先一切の大山及び普く土地を照せるも日光は無意に自然に照す。如來も又無量無辺法界智慧の日輪を成就して常に無量無礙の智慧の光明を放つて普賢菩薩等及び縁覺声聞及び一切衆生を照す。未來饒益の因縁を作すに無為自然にして饒益を作す。

又譬ば日月世間に出現して乃至深山幽谷普く照さざること無きが如く如來智慧日月

またまたかくのごとし　あまねくいつさい
亦復如是、普一切を照して明かならざるなし。但衆生希望善根不同の故に如来
智光種々に差別すと。

是如来は靈界の天尊にして一切衆生の心に對して利益を施すこと天の日月の自然に
万物に光被するが如くに例せられたり。我等衆生も仏陀の教に随ひ弥陀の靈德に化せ
られて自然に德が具備する時は如来は我等が身に入り来り分に如来の働が出来得る。
実は実の如来の靈德は宇宙法界に充滿して居り衆生の心器さえ靈力を感じ受すべき装
置をすれば無限の靈源より我等が身心に受電して如来の妙用を働かして玉わる。そが
即ち如来の德である。

天尊と如来の德

天尊とは天とは蒼天とかまた天上界の義でなく、第一義天として絶対の大靈即ち真如

のこと、天然てんねんの法爾ほうにの自性じしやうを云う。是こは本爾ほんにに威神力いじんりきを以て万物ばんぶつに儼臨げんりんす故に天尊てんそんと云う。絶對ぜつたいとしての天尊てんそんは法身ほつしんの義ぎ。宇宙うちゆうの中心ちゆうしん本尊ほんそんとし靈的れいてき人格じんかくとしての天尊てんそんは報身ほうしんの義ぎ。人格じんかくを以て人類じんるいに應現おうげんしては応身おうじんの義ぎなり。如来にょらいの徳とくとは如来にょらいは任運無意にんぬんむいに一切衆生いっさいしゆじやうを利益りやくし摂化せつけし玉たまう徳とくを以て居る。仏事ぶつじを作すと云うも同じ義ぎにて、仏事ぶつじを為すとは如来にょらいは常に十方世界じつぱうせかいに示現じげんして八相成仏はつそうじやうぶつして衆生しゆじやうを度す。是こは仏ぶつの作なす事業じぎやうである。人類じんるいには人類じんるいの業事ぎやうじあり。畜類ちくるいにも各々おのおの其作事そのさじあり。人類じんるいには農家のうかには農事のうじ商家かには商業しやうぎ職人しやくにんには工巧くきやうの業ぎやうあるが如く、如来にょらいは常恒じやうごうに一切衆生いっさいしゆじやうを摂化利生せつけりしやうし成仏じやうぶつ得道とくどうを与え玉たまう事業じぎやうあり。之これを如来にょらいの徳とくとす。

行 如 来 徳

本然清淨ほんねんしやうじやうの第一義天だいいちぎてん。仏性不空万徳円満ぶつしやうふくうまんとくえんまんの尊者そんじやが如来にょらいの徳とくを行おこない玉たまうて、仏陀三輪ぶつだりん

清淨にして万徳円満智徳円満具せざるなく、如来の智慧神通人格円満等の万徳は仏陀の一人格に具備し三輪清淨にして自利利他の徳備わりて、また所化の衆生を摂化し玉う。身口意三業完全道徳の鑑なり。如来十力四無畏十八不共法等の徳を以て、身心共に完全に円満に自己を完成し、其の力用を以て他の一切衆生を摂化同化し玉う。四智円かに万徳具さに備わり、覺と行と共に究竟して衆生を徳化するを如来の徳とす。

一切は本、如来より生ずる万物なれば、如来の光明に自覺する時は、自己の性、本来、如にして二如なく、身口意の三業共に如の徳を行じて、如来と共に仏心仏行を作すことを得。

衆生如に背く時は、絶対如中に在りながら、自から相對生死の中に有り。彼我分別の思想を以て全く如来と正反對の位置に立てり。如来は絶対無限、衆生は相對有限、如来は涅槃、衆生は生死等乃至一切悉く反對なり。然るに前の四徳を以て智慧の眼

を明きて、理に於て如来を証得し、感情には融合して如来大慈光に融解して大我を我とし、意志は如来聖意に靈化して、全部が如来に同化する時は、其内証は絶対真如即ち大靈と合一し融合して、無限の源泉より靈力は我が心中に湧出す。然る時は即ち我が身口意の三業は悉く如来不可思議靈徳の顕現なり。今我が身心は如来の靈徳の人格現にして、即ち小釈迦なり。

絶対なる弥陀の万徳を個体に包含して其靈徳を人格的に円満に實現して身口意の三業に活用するは即ち人仏釈尊なり、故に釈尊は絶対大靈徳の表現の故に天尊とす。

其如来の万徳現として三業の所作として如々の顕現如々の活用ならざるなし。故に如来の徳を行す。

釈尊は如々大靈徳を實現するに最も完全なる身心の機械を成じたる故に遺憾なしに活用し玉いしなり。我等衆生も如より来生して光明の人格となれば、分に如来の徳を行するなり。

初(はつ)の天尊(てんそん)と終(しゆう)の天尊(てんそん)

仏(ほとけ)は本(もと)絶(ぜつ)対(たい)真(しん)如(にょ)界(かい)の時(じ)間(かん)を越(こ)え空(くう)間(かん)を立(たち)超(こ)えたる、因(いん)縁(ねん)因(いん)果(が)をも立(たち)超(こ)えたる真(しん)如(にょ)界(かい)に住(じゅう)し玉(たま)う靈(れい)體(たい)に在(まじ)せし、本(ほん)覺(かく)真(しん)如(にょ)の都(みやこ)に在(まじ)ます靈(れい)妙(みょう)不(ふ)思(し)議(ぎ)の尊(そん)體(たい)なれども、此(この)世(せ)界(かい)の衆(しゆ)生(じよう)の爲(ため)に靈(れい)界(かい)の消(しょう)息(そく)を伝(つた)えんが爲(ため)に出(い)でませり。また現(げん)世(せ)界(かい)の生(し)死(じ)等(とう)のすべての真(しん)理(り)を明(あか)さん(あか)が爲(ため)に世(よ)に出(い)で玉(たま)えり。

本(もと)、現(げん)在(ざい)の相(そう)對(たい)的(てき)の生(し)死(じ)の世(せ)界(かい)の人(ひと)でなく、生(し)死(じ)を立(たち)超(こ)えたる靈(れい)界(かい)の靈(れい)格(かく)である。若(も)し天(てん)と人(ひと)と云(い)ふ語(ご)でわけて見(み)れば、仏(ほとけ)は天(てん)の人(ひと)にて衆(しゆ)生(じよう)は地(ち)上(じよう)の生(せい)物(ぶつ)である。靈(れい)界(かい)同(どう)志(し)、人(じん)類(るい)同(どう)志(し)なれば、人(じん)類(るい)を地(ち)上(じよう)より、より以上(いじ)上(じよう)なる光(こう)明(めい)界(かい)に引(いん)導(どう)し玉(たま)う權(けん)威(い)がない。仏(ぶつ)陀(だ)の神(しん)識(しき)は普(ふ)通(つう)の人(ひと)とは其(その)性(せい)質(しつ)が異(こと)な居(い)る。普(ふ)通(つう)の人(ひと)は煩(ぼん)惱(のう)を具(そな)えておる。例(たと)えば未(いま)だ琢(たく)磨(ま)せざる宝(ほう)石(せき)の如(ごと)くなので仏(ほとけ)は本(もと)、一(いつ)端(たん)琢(たく)磨(ま)せられた宝(ほう)石(せき)の如(ごと)く、

其のころもとよき靈界より、報身仏より身を分けて形をば人間界に受けなされた。其実は其神が本清き靈界より、生れ乍ら尊むべき性を具えて居った。然れども人類に順じて暫くは仮に凡人と同じ質を具えておるように現われなされた。そは何人も本仏性が具わっている故に、琢磨さえずれば必ず靈き光を射すように成ることを示す為である。而して仏陀は具有しておる心靈の光を充分に發揮するように成って、天日の如くすべての精神を照す世の光明である。故に世尊と名づく。

初の世尊は超然たる光明界より心の闇の衆生界に出なされて、靈界の福音を宣伝なされ、超然たる独り高遠なる天国よりして、已下の一切衆生界を照す時は瞭然として知見せらる。相互平凡同士では、自分の面目さえ見えぬ、沉んや佗の人々の事をや。例えば地球中に住する人には、地球全面を見ることは出来ぬ。けれども若し太陽の世界よりは、恰も地球の人が月球を見る如くに、地球の全面を見ることができよう。

世尊の神は、すべての衆生の心と異りて、高く高く明るくして、衆生の心を明かに

照し見玉う。而してすべてを自分の心の領分に占領なされ玉うのである。

終りの天尊は、天は世界を超たる絶対の靈界の天尊と云う意味で、すべての衆生の心を悟らしめて、生死の世界の衆生を絶対なる如来の中の人へと、心を甦らしめて、生死界を超えて永生の光明中の人とせんが為の目的とす。

之を天尊如来の徳と云う。

弥陀光明の反映たる三相五徳

弥陀みだの光明こうみょうに満みだされたる釈尊しゃくそんの靈相みすがたが現あらわれて諸根悦しよこんえつちよ予、姿色清淨しきしやうじやう、光顔巍巍こうげんぎぎ々の三相さんそうとなり、弥陀みだの内包ないほうの靈徳れいとくが釈尊しゃくそんの精神せいしんに感応かんのうして、靈化れいかの五徳ごとくと現あらわれたる訳わけである。大なる弥陀みだの徳とくが釈尊しゃくそんの身みと心こころとに合致がっちしたる相そうを示しめして、釈尊しゃくそんが自みづから宗教きやうてき的もの模範ほんと為なりて、何人なんびとにも拘かかわらず、弥陀みだの光明こうみょうを得うれば、心こころが生うまれ更かりて光明こうみょうの生活せいかつに入いることを得うる状態じやうたいを現あらわされし所以ゆゑんである。

弥陀みだの大光だいこう明みょうは遍あまねく十方世界じつぱうせかいを照てらして此光このこう明みょうを被こうむれば自然しぜんと身体しんたいも心意しんいも麗うるわしく清きよく安やすらかに楽たのしく為なりて而しかして有ありがたさに動うごかされて、日々ひびの仕事しごとも勇いさましく愉快ゆかいに為することが出来できる。此これが釈尊しゃくそん御一代ごいちだいの御仕事おしごとにて悉ことごとく弥陀みだの光明こうみょうに充みたされたる偉大いだいなる御仕事おしごとを為なして在まじます。我等われらも弥陀みだの恩寵おんちやうの光ひかりに満みだされて如来にやらいの聖意せいいにかなう日々ひびの勤つとめを致いたしたくおもふ。